

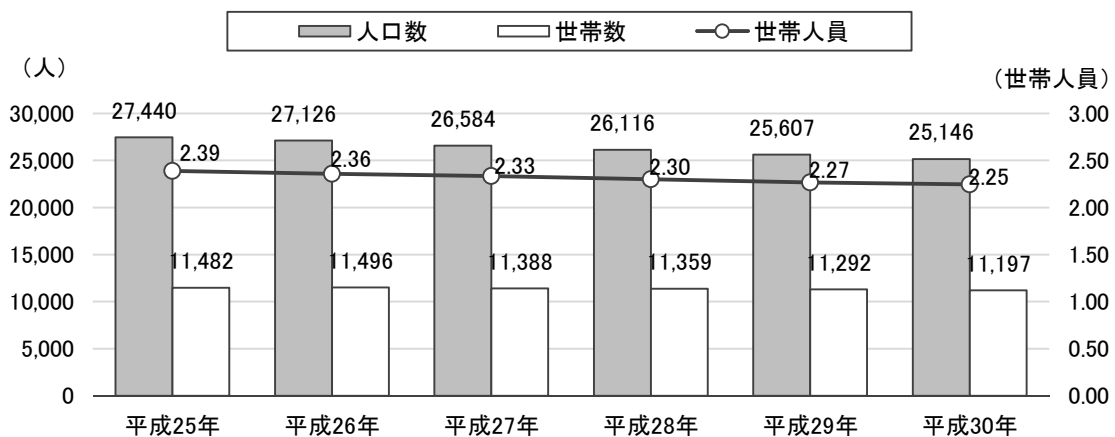
人口推計及びアンケート（重要度・満足度）集計データ報告

1. 人口等の動き

(1) 人口の推移

- 本市の人口数は平成 30 年では 25,146 人と、平成 25 年から 2,294 人の減少となっています。
- 世帯数は平成 30 年では 11,197 世帯と平成 25 年から 285 世帯の減少となっています。人口に対する減少は少なく、世帯人員は 2.25 人と小家族化の進行がみられます。

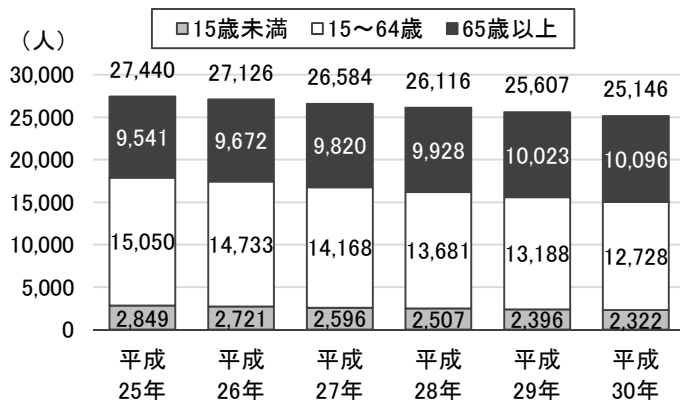
◆人口・世帯数の推移



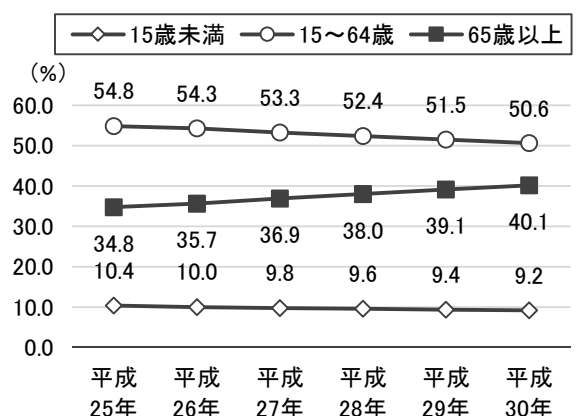
資料:住民基本台帳(平成 25 年は 3.31、平成 26 年以降は 1.1 集計)

- 年齢3区別の人口をみると、平成 30 年の 65 歳以上人口割合は 40.1%と、平成 25 年から 5.3 ポイントの上昇となっており、少子高齢化の進行がみられます。

◆年齢3区別人口の推移



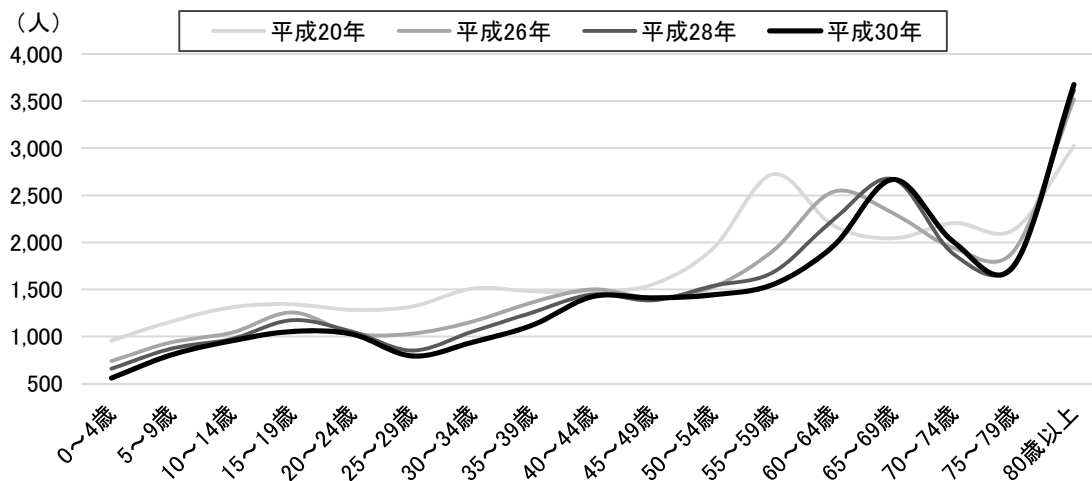
◆年齢3区別人口構成比の推移



資料:住民基本台帳(平成 25 年は 3.31、平成 26 年以降は 1.1 集計)

- 本市の5歳階級別人口では、平成20年での55～59歳、平成30年での65～69歳である団塊の世代というわれる層の人口が多くなっています。その上で年々、年少人口、生産年齢人口において全体的な人口の減少がみられます。
- 特に平成30年では70歳～79歳の人口が、平成20年、26年と比較して、減少している傾向がみられますが、80歳以上の人口は増加しています。

◆5歳階級別人口の推移



資料：住民基本台帳

- 他の類似都市と比較すると、年齢3区分別人口割合では、15歳～64歳人口割合が他都市と比べて若干割合が高く、65歳以上人口割合は中位に位置しています。
- 15歳未満人口割合は他都市と比べて下位に位置しており、このことから美祢市は、年少人口が少ない都市であるということがわかります。

◆【都市間比較】人口総数と年齢3区分別人口

	人口総数		15歳未満人口		15～64歳人口		65歳以上人口	
	平成27年		平成27年		平成27年		平成27年	
萩市	49,560	倉吉市	6,208	倉吉市	27,190	萩市	19,591	
倉吉市	49,044	益田市	5,912	萩市	25,031	真庭市	16,900	
益田市	47,718	赤磐市	5,912	益田市	24,962	益田市	16,674	
真庭市	46,124	真庭市	5,519	赤磐市	23,757	倉吉市	15,488	
赤磐市	43,214	萩市	4,835	真庭市	23,649	庄原市	15,007	
安来市	39,528	安来市	4,798	安来市	20,593	雲南市	14,228	
雲南市	39,032	雲南市	4,597	瀬戸内市	20,291	長門市	14,070	
庄原市	37,000	瀬戸内市	4,350	雲南市	20,147	安来市	13,816	
瀬戸内市	36,975	大田市	3,980	庄原市	17,878	赤磐市	13,521	
長門市	35,439	庄原市	3,963	長門市	17,793	大田市	13,345	
大田市	35,166	柳井市	3,690	大田市	17,653	高梁市	12,243	
柳井市	32,945	長門市	3,560	柳井市	17,149	瀬戸内市	12,151	
高梁市	32,075	新見市	3,269	高梁市	16,496	柳井市	12,008	
新見市	30,658	安芸高田市	3,226	新見市	15,420	新見市	11,851	
安芸高田市	29,488	美作市	3,041	安芸高田市	14,850	安芸高田市	11,400	
美作市	27,977	高梁市	2,993	美作市	14,020	美作市	10,873	
竹原市	26,426	江津市	2,760	美祢市	13,749	竹原市	10,065	
美祢市	26,159	竹原市	2,676	竹原市	13,591	江田島市	9,970	
江津市	24,468	美祢市	2,502	江津市	12,745	美祢市	9,887	
江田島市	24,339	江田島市	2,060	江田島市	12,294	江津市	8,942	
山口県	1,404,729	山口県	170,022	山口県	778,430	山口県	447,862	

◆【都市間比較】年齢3区分別人口割合

	15歳未満人口		15～64歳人口		65歳以上人口	
	平成27年		平成27年		平成27年	
赤磐市	13.7%	倉吉市	55.6%	江田島市	41.0%	
倉吉市	12.7%	瀬戸内市	55.2%	庄原市	40.7%	
益田市	12.4%	赤磐市	55.0%	長門市	39.7%	
安来市	12.2%	美祢市	52.6%	萩市	39.6%	
真庭市	12.0%	安来市	52.5%	美作市	38.9%	
瀬戸内市	11.8%	益田市	52.5%	新見市	38.8%	
雲南市	11.8%	柳井市	52.2%	安芸高田市	38.7%	
大田市	11.4%	江津市	52.1%	高梁市	38.6%	
江津市	11.3%	高梁市	52.0%	竹原市	38.2%	
柳井市	11.2%	雲南市	51.7%	大田市	38.2%	
安芸高田市	10.9%	竹原市	51.6%	美祢市	37.8%	
美作市	10.9%	真庭市	51.3%	真庭市	36.7%	
庄原市	10.8%	萩市	50.6%	江津市	36.6%	
新見市	10.7%	江田島市	50.5%	柳井市	36.6%	
竹原市	10.2%	新見市	50.5%	雲南市	36.5%	
長門市	10.0%	大田市	50.5%	安来市	35.2%	
萩市	9.8%	安芸高田市	50.4%	益田市	35.1%	
美祢市	9.6%	長門市	50.2%	瀬戸内市	33.0%	
高梁市	9.4%	美作市	50.2%	倉吉市	31.7%	
江田島市	8.5%	庄原市	48.5%	赤磐市	31.3%	
山口県	12.2%	山口県	55.7%	山口県	32.1%	

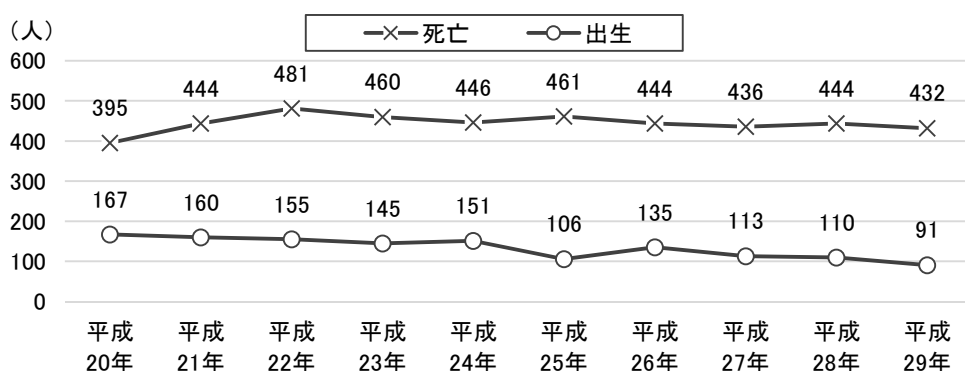
資料：国勢調査(平成27年)

※都市間比較は、中国地方の人口5万人未満、産業構造2次・3次95%未満かつ3次55%以上の団体を抽出(以降、同じ)

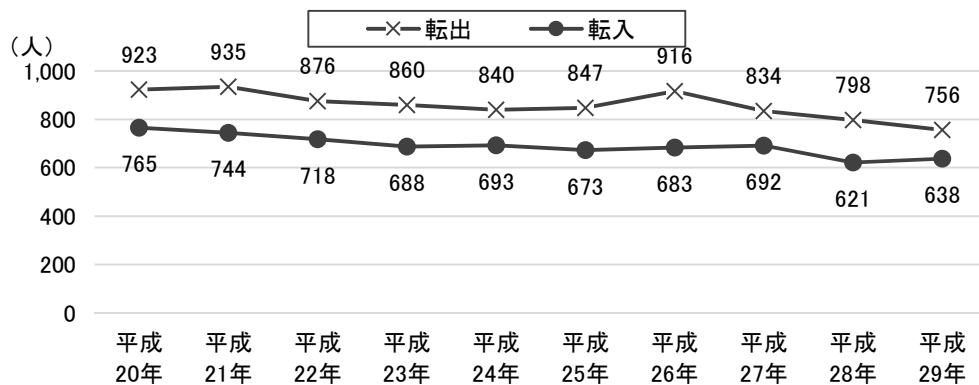
(2) 人口動態の推移

- 自然動態をみると、死亡数が出生数を上回っており、近年の死亡数は 440 人前後で推移しています。出生数は年々減少しており、平成 29 年では 91 人と 100 人を切りました。
- 社会動態をみると、転出が転入を上回っています。転出者数は平成 26 年の 916 人以降、減少傾向にあり、平成 29 年では 756 人となっています。転入については平成 29 年では 638 人と前年よりやや増加していますが、減少傾向にあります。
- 人口増減をみると、平成 29 年の社会減が△118 人と近年では低い人数となっているものの、社会減・自然減が続いており、今後も人口減少が続くと予測されます。

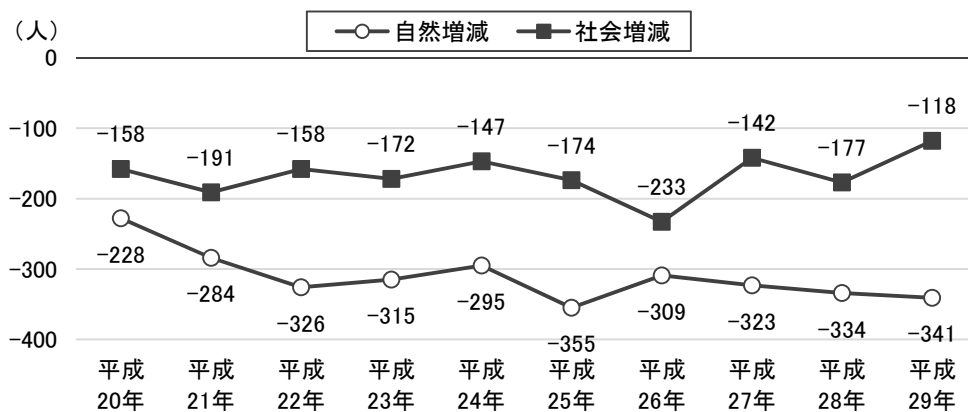
◆自然動態の推移



◆社会動態の推移



◆人口増減の推移



資料：山口県人口移動統計調査結果報告書

- 人口動態の割合を都市間で比較してみると、美祢市の粗死亡率、転入率、転出率は他都市と比較して中位の位置にあります。
- 出生率に関しては、下位に位置しており、他都市と比較して低い値となっています。

◆【都市間比較】人口動態の比較

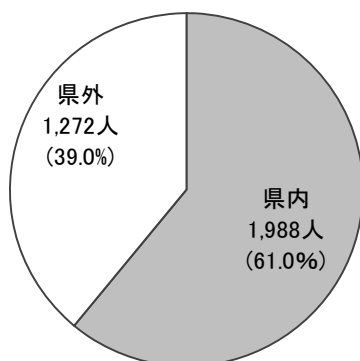
	普通出生率 (人口1,000人あたり)		粗死亡率 (人口1,000人あたり)		転入率 (転入者数/人口総数)		転出率 (転出者数/人口総数)	
	平成27年		平成27年		平成27年		平成27年	
益田市	7.5	江田島市	20.2	江田島市	5.0	江田島市	6.1	
倉吉市	7.4	大田市	19.3	赤磐市	3.0	高梁市	3.3	
赤磐市	7.4	庄原市	19.2	柳井市	2.9	柳井市	3.3	
安来市	6.9	高梁市	18.0	高梁市	2.9	竹原市	3.2	
真庭市	6.8	美作市	17.9	瀬戸内市	2.8	赤磐市	3.0	
大田市	6.7	長門市	17.3	竹原市	2.6	倉吉市	3.0	
江津市	6.4	江津市	17.1	倉吉市	2.4	瀬戸内市	3.0	
瀬戸内市	6.4	新見市	17.0	江津市	2.3	益田市	2.9	
雲南市	6.3	安芸高田市	16.9	大田市	2.3	美祢市	2.9	
庄原市	6.0	萩市	16.8	益田市	2.3	萩市	2.8	
新見市	6.0	美祢市	16.7	安芸高田市	2.2	江津市	2.8	
安芸高田市	5.9	雲南市	16.1	萩市	2.2	大田市	2.7	
美作市	5.9	真庭市	15.9	美祢市	2.2	美作市	2.7	
高梁市	5.9	柳井市	15.9	庄原市	2.2	安芸高田市	2.6	
萩市	5.3	竹原市	15.4	長門市	2.1	長門市	2.6	
江田島市	5.2	安来市	14.4	美作市	2.1	庄原市	2.5	
柳井市	5.0	益田市	14.1	安来市	2.0	雲南市	2.4	
長門市	4.8	倉吉市	13.7	雲南市	2.0	新見市	2.4	
美祢市	4.2	瀬戸内市	13.5	新見市	1.7	安来市	2.4	
竹原市	3.9	赤磐市	13.1	真庭市	1.7	真庭市	2.2	
山口県	7.0	山口県	13.1	山口県	2.8	山口県	3.1	

資料：統計でみる市区町村のすがた 2018

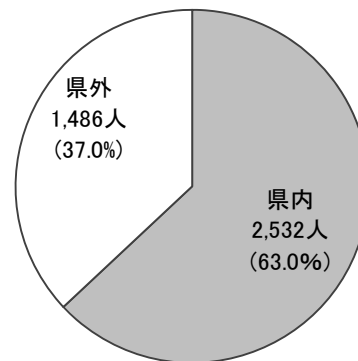
- 転入・転出に係る居住地をみると、転入・転出ともに県内他市町の移動が約6割となっています。

◆平成30年の転入者・転出者数及び割合の状況

【転入してきた人の前居住地】



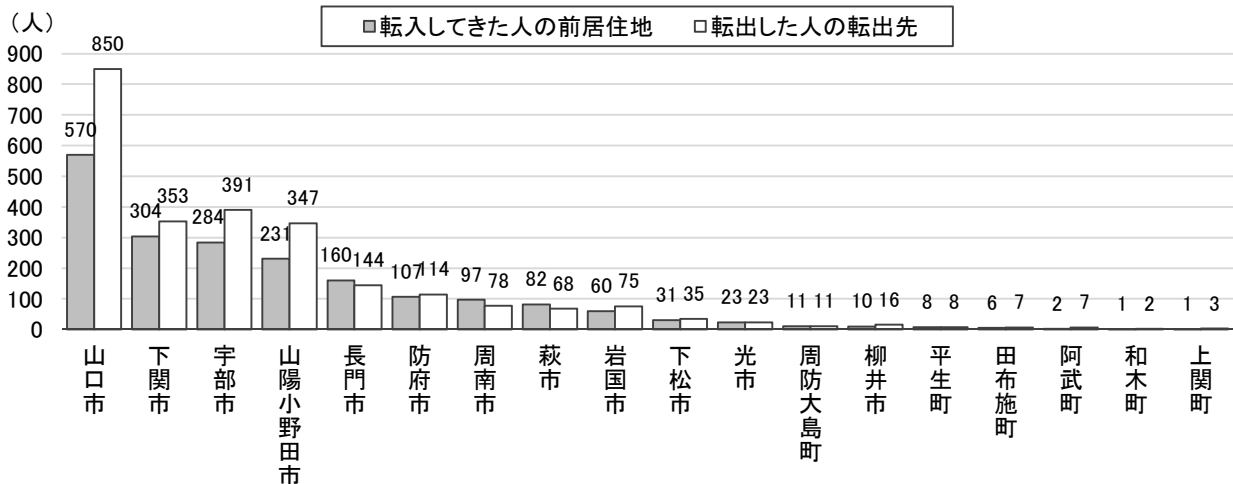
【転出した人の転出先】



資料：住民基本台帳(平成30年10月)

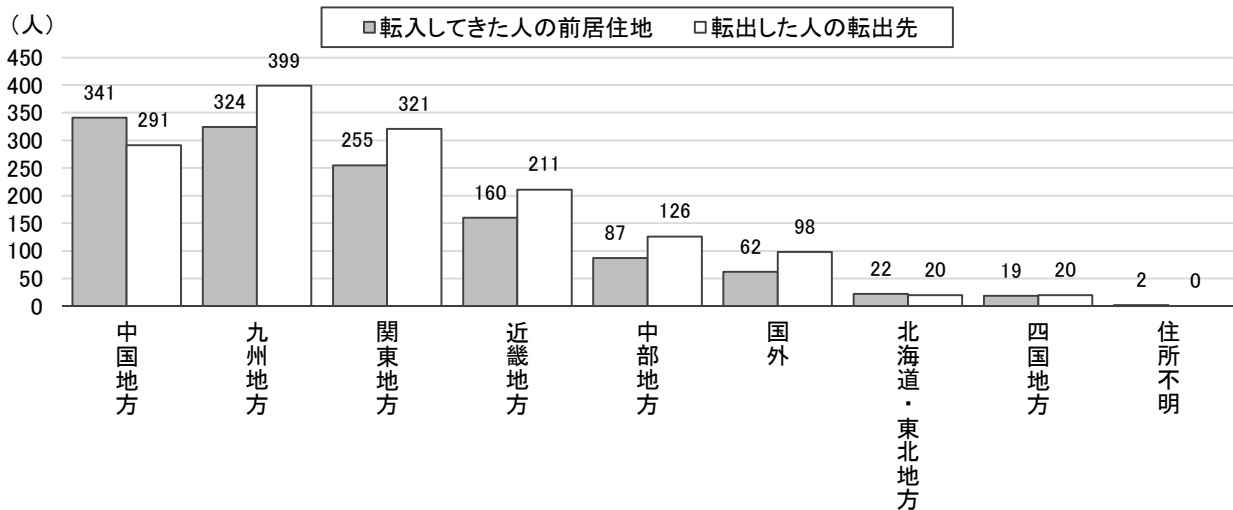
- 美祢市と県内市町間の転入出をみると、山口市・下関市・宇部市・山陽小野田市間において転入出数が多くなっています。
- 美祢市と県外間の転入出をみると、中国地方・九州地方・関東地方間の移動が多くなっており、中国地方では転入が転出を上回っています。
- 上位3地方の内訳をみると、広島県・福岡県・東京都の移動が多く、これらの都県が全体の上位3位を占めています。

◆平成30年の県内市町の転入者・転出者の状況



資料:住民基本台帳(平成30年10月)

◆平成30年の県外地方の転入者・転出者の状況



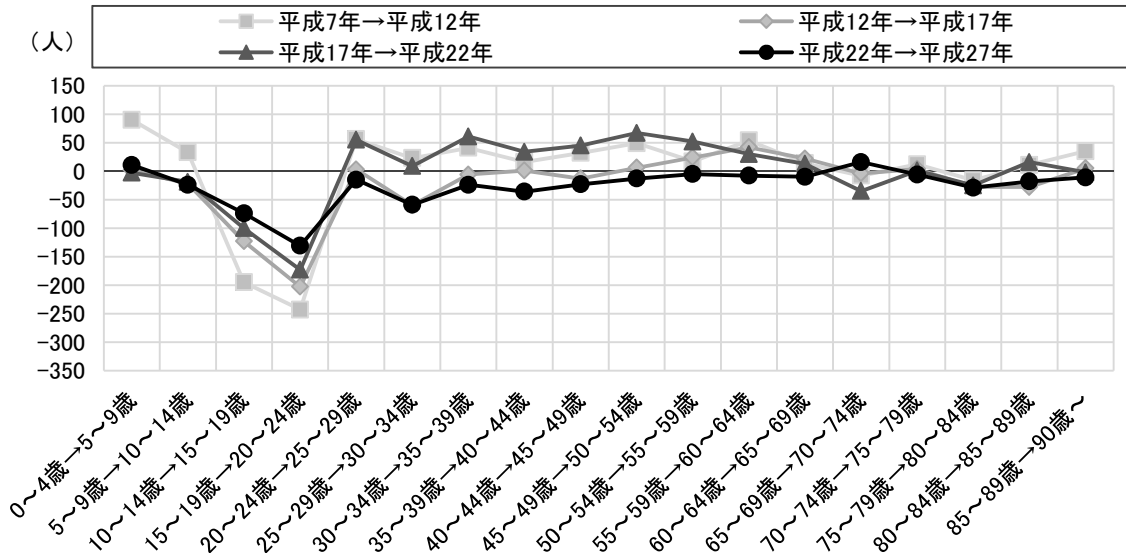
◆転入出上位3位の地方の転入者・転出者内訳

資料:住民基本台帳(平成30年10月)

中国地方の転入出			九州地方の転入出			関東地方の転入出		
	転入	転出		転入	転出		転入	転出
広島県	271	201	福岡県	232	313	東京都	113	155
岡山県	35	50	大分県	23	16	千葉県	54	52
島根県	20	30	佐賀県	19	21	神奈川県	44	64
鳥取県	15	10	長崎県	19	13	埼玉県	26	27
			熊本県	18	10	茨城県	8	13
			沖縄県	6	7	栃木県	7	8
			鹿児島県	4	7	群馬県	3	2
			宮崎県	3	12			

- 年齢階級別の移動数をみると、男女ともに 20 歳前後の転出が多い状況がうかがえます。10 歳前後の子どもの転出超過もみられ、子育て世代の転出による影響が推測されます。
- 女性の移動状況をみると、20 歳前後の転出が多くみられます。近年は人口減少に伴い、転出超過数も減少しています。30 歳前後にかけてUターン等の影響から転入超過がみられ、60 歳代にかけて転入超過となっていました。平成 22 年→平成 27 年ではこれらの年代は転出超過に転じています。

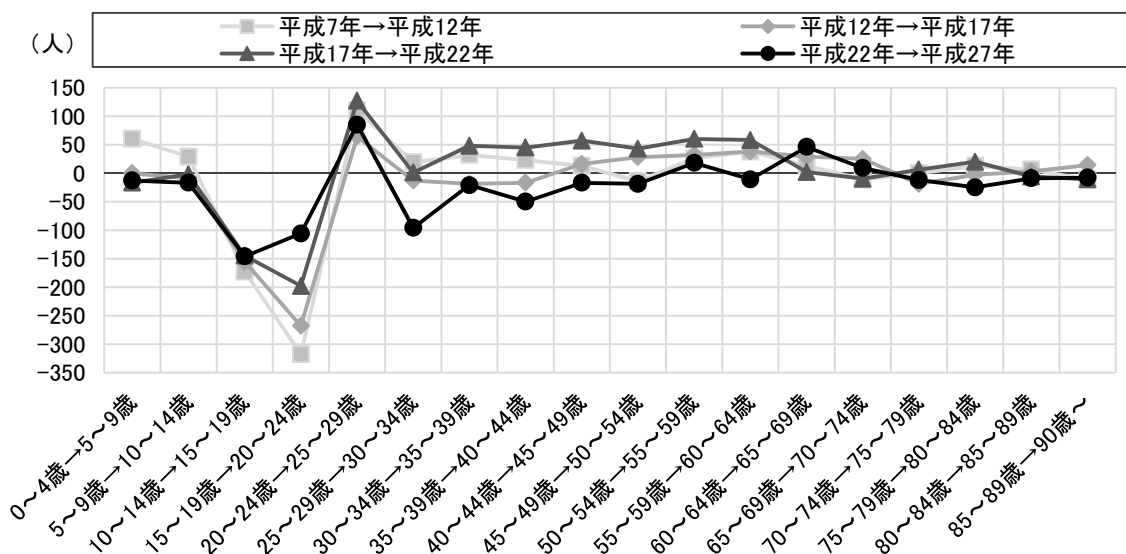
◆女性の年齢階級別純移動数の推移



資料: 国勢調査

- 男性の移動状況をみると、女性と比べて 20 歳前後の転出数が多い状況となっていました。平成 22 年→平成 27 年では転出超過数が減少しています。20 歳半ばでは転入超過となっており、女性と比べても多くなっています。30 歳前後で再び転出超過に転じていることから、就職や転職、転勤などが影響している状況がうかがえます。

◆男性の年齢階級別純移動数の推移

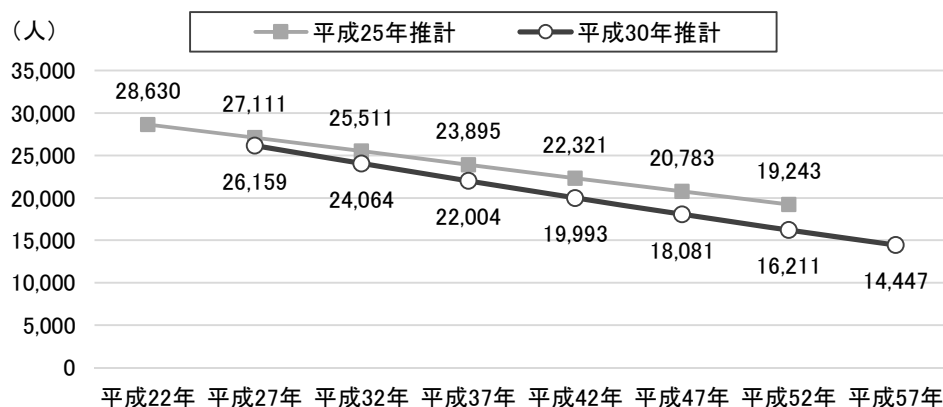


資料: 国勢調査

(3) 将来推計人口

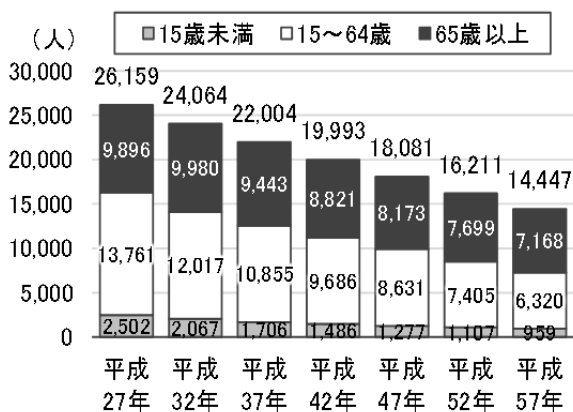
- 美祢市の将来推計人口は、平成 25 年推計では平成 52 年に 19,243 人となると推計されていましたが、平成 30 年推計では平成 42 年(2030 年)に 19,993 人となり、20,000 人を割り込むと推計されています。
- 年齢3区分別将来推計人口では、15 歳未満人口と 15 歳～64 歳人口の減少が著しく、平成 52 年(2040 年)では平成 27 年時点から半分以下になると推計されています。
- 高齢者の人口は、平成 32 年度で 9,980 人とピークとなり、その後減少に転じる推計となっています。一方で高齢化率は上昇を続け、平成 52 年(2040 年)には 15 歳～64 歳人口の割合を上回り、平成 57 年(2045 年)には約 5 割になると推計されています。

◆将来推計人口

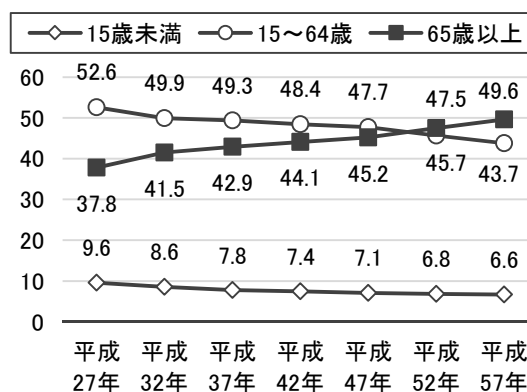


資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

◆年齢3区分別将来推計人口

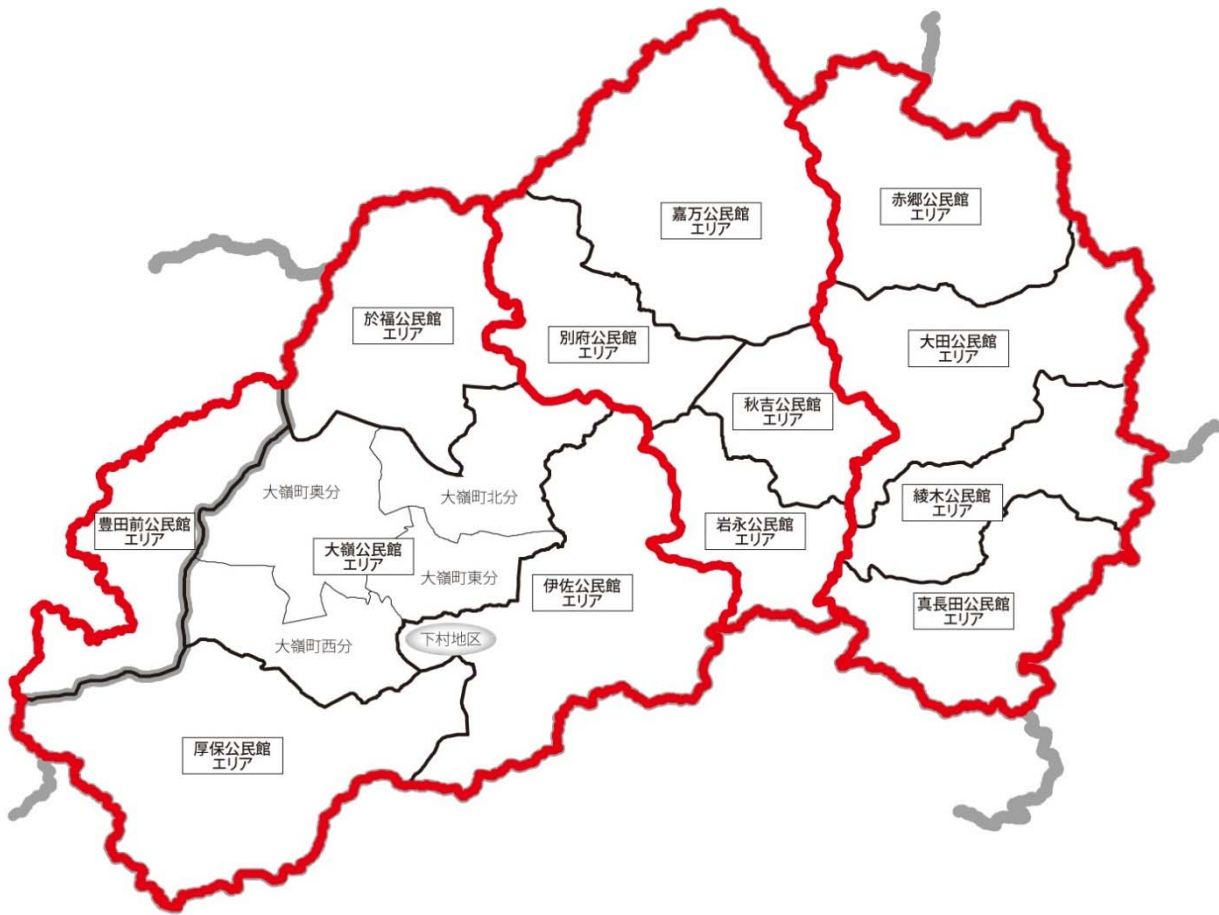


◆年齢3区分別将来推計人口構成比

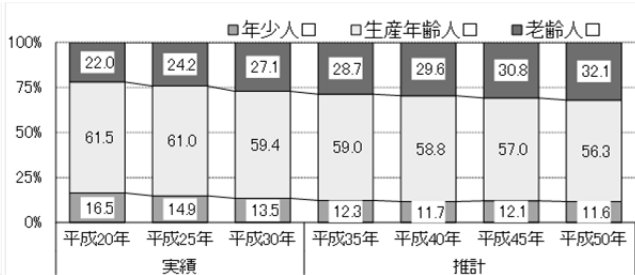
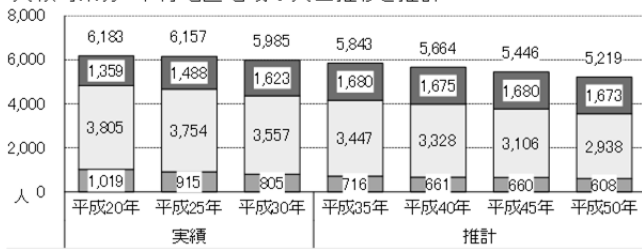


資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成 30(2018)年推計)

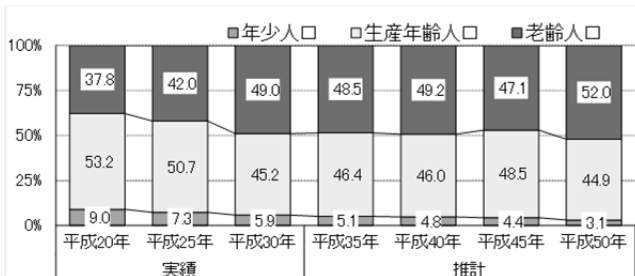
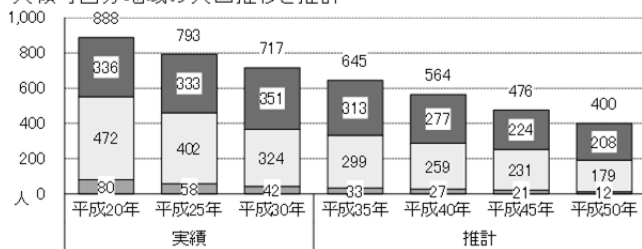
◆美祢市の公民館等エリアの位置図



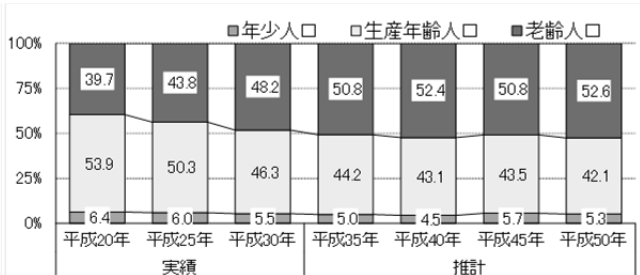
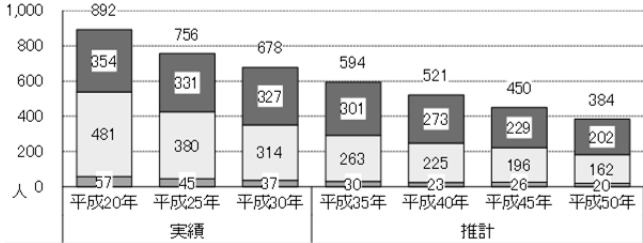
大嶺町東分・下村地区地域の人口推移と推計



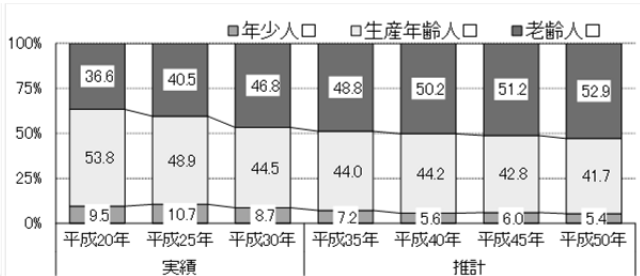
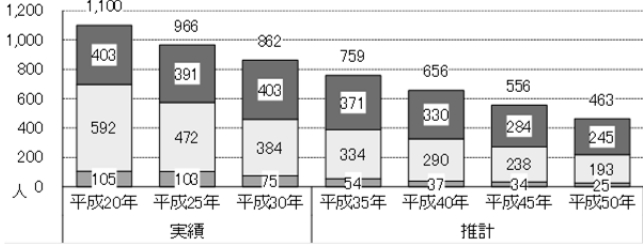
大嶺町西分地域の人口推移と推計



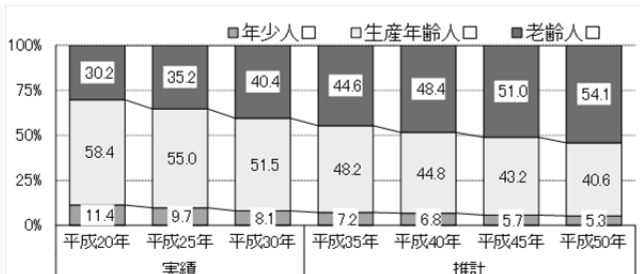
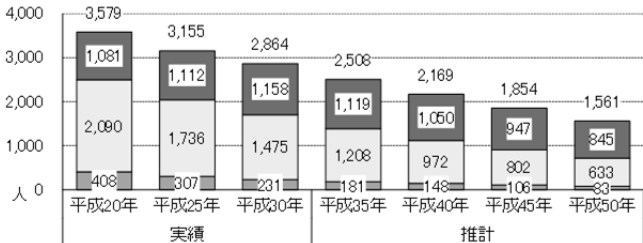
大嶺町北分地域の人口推移と推計



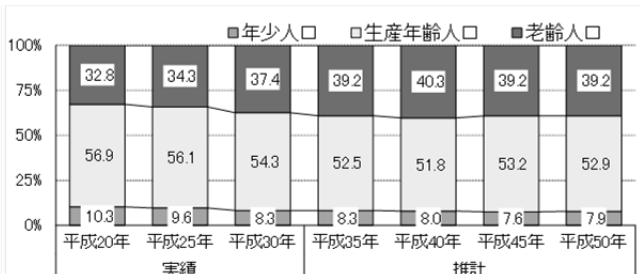
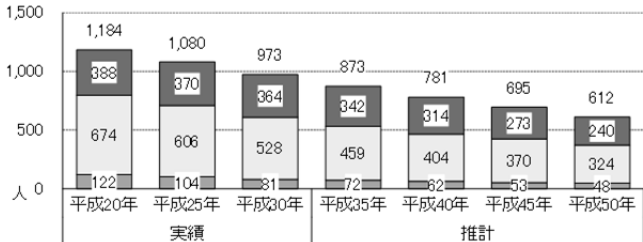
大嶺町奥分地域の人口推移と推計



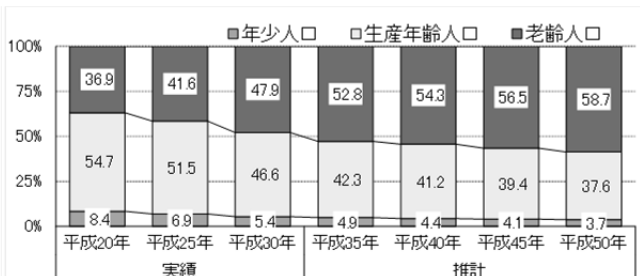
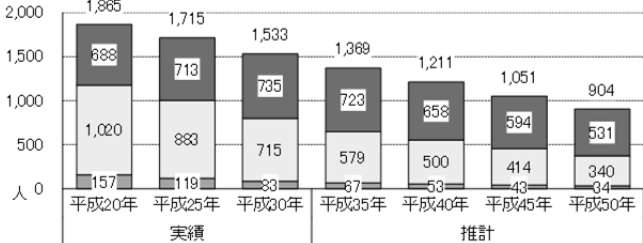
伊佐公民館地域の人口推移と推計



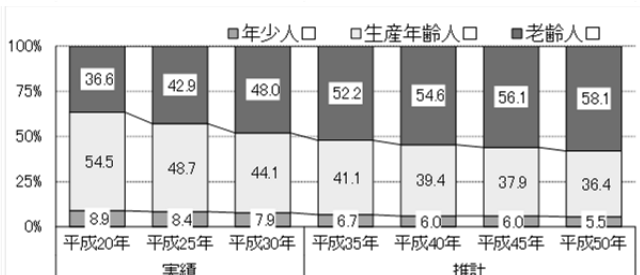
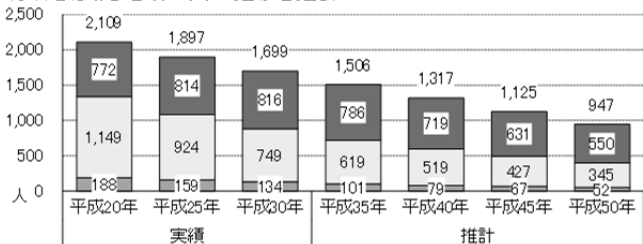
豊田前公民館地域の人口推移と推計



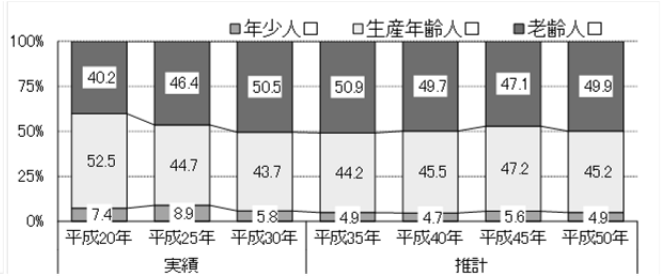
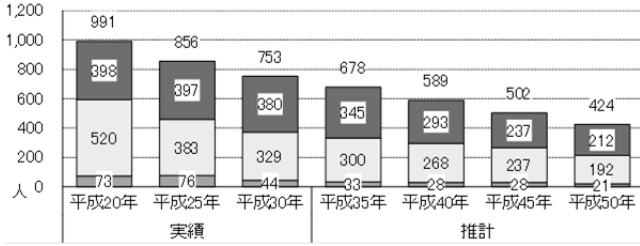
於福公民館地域の人口推移と推計



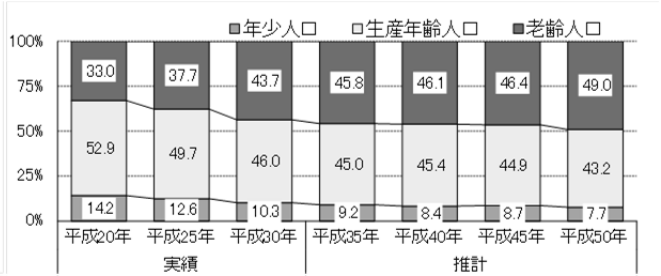
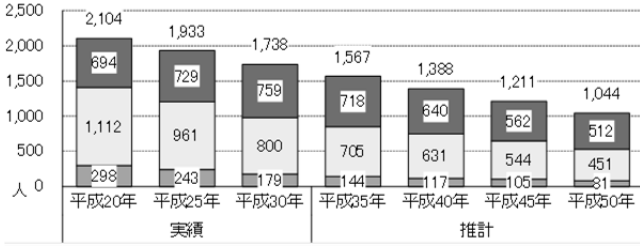
厚保公民館地域の人口推移と推計



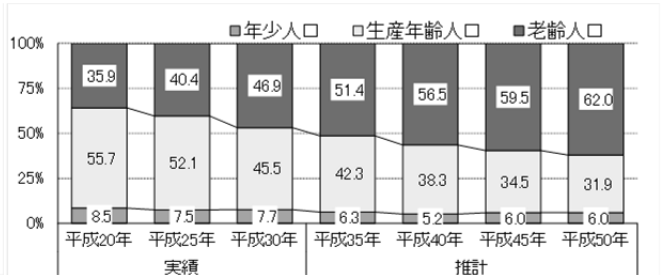
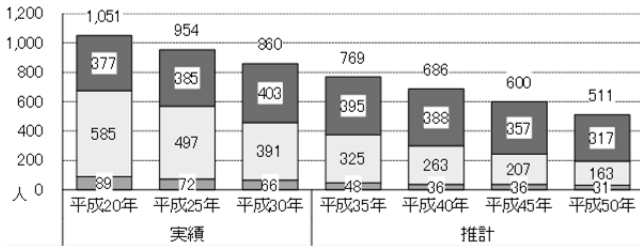
赤郷公民館地域の人口推移と推計



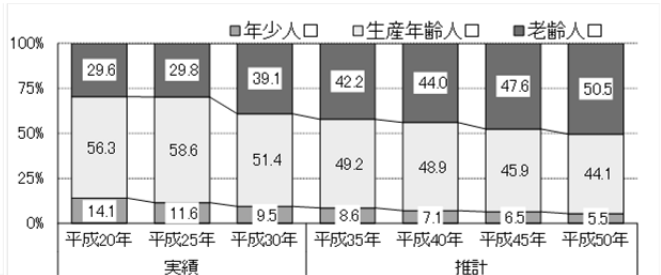
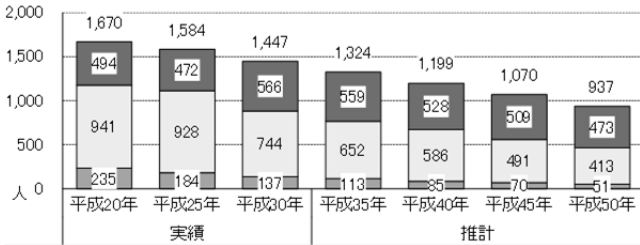
大田公民館地域の人口推移と推計



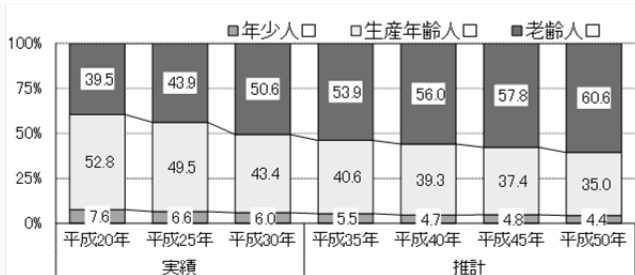
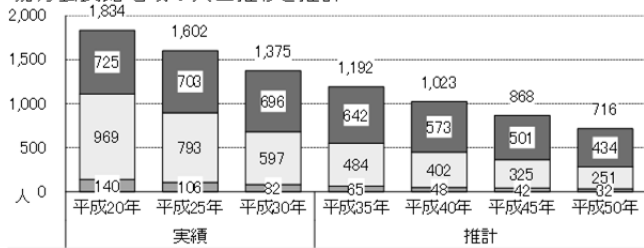
綾木公民館地域の人口推移と推計



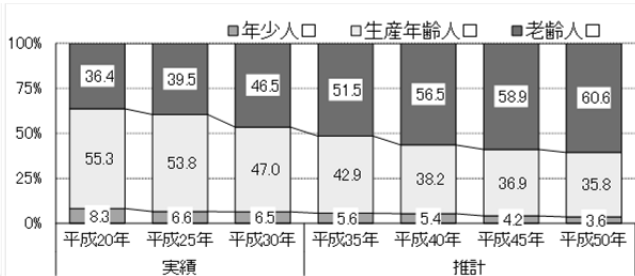
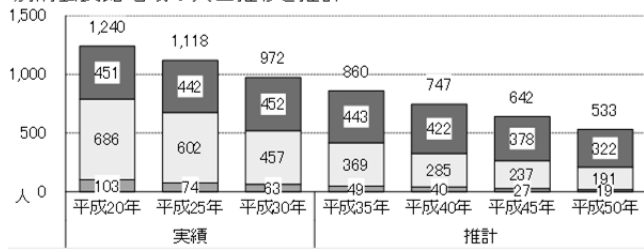
真長田公民館地域の人口推移と推計



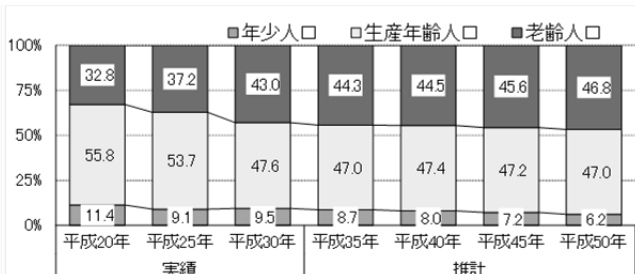
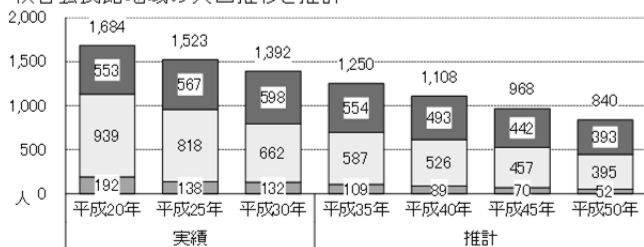
嘉万公民館地域の人口推移と推計



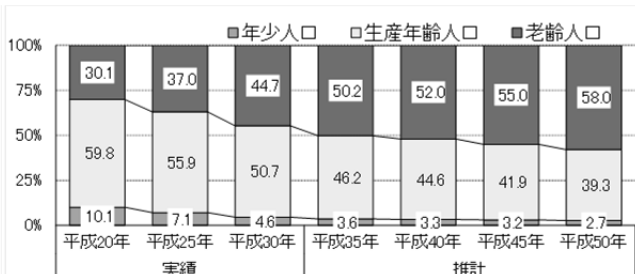
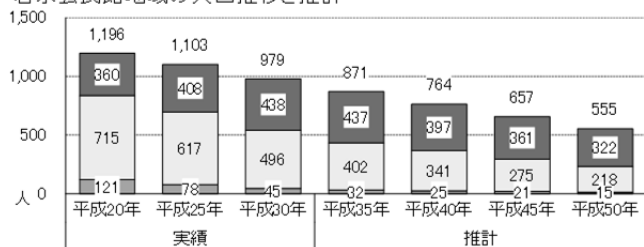
別府公民館地域の人口推移と推計



秋吉公民館地域の人口推移と推計



岩永公民館地域の人口推移と推計



2. アンケートによる施策の満足度と重要度

※CS分析の算出方法について

満足度と重要度を相対的に比較しやすくするため、加重平均値(満足度・重要度平均)を算出している

＜施策の満足度、重要度＞		
選択肢		点数
①満足	①高い	+2
②やや満足	②やや高い	+1
③ふつう	③ふつう	0
④やや不満	④やや低い	-1
⑤不満	⑤低い	-2
⑥無回答(不明)	⑥無回答(不明)	除外

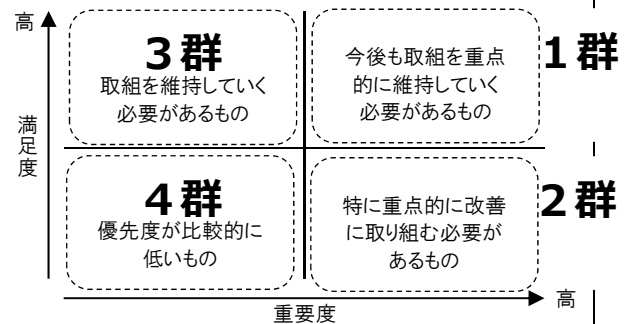
【算出方法】 $(\text{①の回答数} \times 2点) + (\text{②の回答数} \times 1点) + (\text{③の回答数} \times 0点) + (\text{④の回答数} \times -1点) + (\text{⑤の回答数} \times -2点)$
 加重平均値 = $\frac{\text{算出結果}}{(\text{回答総数}) - (\text{「無回答」の人数})}$

※満足度と重要度の相関図について

相関グラフは、縦軸に満足度、横軸に重要度を設定し、各取組の加重平均値によって、4つの性格を持つ領域に整理区分したものを。

【相関図の見方】

図の上側にあるほど満足度が高く、右側にあるほど、重要度が高いことを示している



項目		重要度 平均:0.39	満足度 平均:-0.17	区分	前回区分
①安全・安心の確保のための取組	01.保健・医療サービスの充実	0.89 (0.87)	-0.35 (-0.49)	2群	2群
	02.高齢者保健福祉の充実	0.78 (0.75)	-0.09 (-0.17)	1群	1群
	03.障害者福祉の充実	0.55 (0.57)	-0.09 (-0.15)	1群	1群
	04.地域福祉の充実	0.46 (0.39)	-0.05 (-0.14)	1群	1群
	05.社会保障の充実	0.57 (0.50)	-0.18 (-0.31)	2群	2群
	06.計画的な土地利用の推進	0.28 (0.32)	-0.48 (-0.6)	4群	4群
	07.体系的な道路網の整備	0.33 (0.26)	0.17 (0.18)	3群	3群
	08.都市機能の整備	0.22 (0.11)	-0.34 (-0.39)	4群	4群
	09.上・下水道の整備	0.51 (0.45)	-0.04 (-0.11)	1群	1群
	10.公共交通の充実	0.56 (0.41)	-0.64 (-0.6)	2群	2群
	11.情報・通信分野の整備	0.40 (0.34)	-0.07 (-0.1)	1群	3群
	12.自然環境の保全	0.26 (0.26)	-0.01 (-0.11)	3群	3群
	13.住環境の整備と定住促進	0.33 (0.35)	-0.17 (-0.21)	4群	3群

項目		重要度 平均:0.39	満足度 平均:-0.17	区分	前回 区分
①安全・安心の確保のための取組	14.公園・緑地の整備	0.12 (0.10)	-0.16 (-0.32)	3群	4群
	15.消防・防災の推進	0.48 (0.48)	0.09 (0.09)	1群	1群
	16.交通安全・防犯対策の推進	0.45 (0.44)	0.13 (0.09)	1群	1群
	17.環境衛生の推進	0.18 (0.21)	-0.03 (-0.05)	3群	3群
	18.循環型社会を目指したシステムの構築	0.35 (0.44)	0.00 (-0.04)	3群	1群
	19.消費者の安全	0.31 (0.33)	0.01 (-0.1)	3群	3群
②観光交流の促進のための取組	01.観光の振興	0.52 (0.43)	-0.20 (-0.34)	2群	2群
	02.国際交流の推進	0.10 (0.05)	-0.08 (-0.16)	3群	3群
	03.広域観光連携・地域間交流の推進	0.24 (0.19)	-0.18 (-0.26)	4群	3群
	04.観光産業の育成	0.37 (0.31)	-0.46 (-0.62)	4群	4群
	05.おもてなしの向上	0.22 (0.17)	-0.20 (-0.37)	4群	4群
③産業の振興のための取組	01.商工業の振興	0.44 (0.36)	-0.51 (-0.63)	2群	4群
	02.農林業の振興	0.45 (0.44)	-0.38 (-0.52)	2群	2群
	03.市内雇用の拡大や労働者の福利厚生	0.63 (0.61)	-0.48 (-0.75)	2群	2群
	04.一体的な産業の推進と企業誘致の推進	0.55 (0.52)	-0.46 (-0.63)	2群	2群
	05.観光と連携した地場産業の育成	0.42 (0.38)	-0.33 (-0.52)	2群	2群
	06.六次産業化や地域ブランド開発の推進	0.45 (0.44)	-0.28 (-0.52)	2群	2群
④ひとの育成のための取組	01.学校教育・人材育成の充実	0.71 (0.63)	-0.08 (-0.24)	1群	1群
	02.生涯学習・生涯スポーツの推進	0.36 (0.23)	-0.06 (-0.15)	3群	3群
	03.青少年健全育成と地域づくり	0.35 (0.27)	-0.05 (-0.13)	3群	3群
	04.ふるさと教育の充実	0.35	-0.06	3群	
	05.子育て支援の充実	0.63 (0.60)	-0.09 (-0.22)	1群	1群
	06.ジオパーク活動の推進	0.14	-0.03	3群	
	07.芸術・文化の振興	0.16 (0.12)	-0.11 (-0.2)	3群	3群
	08.文化財の保護	0.26 (0.20)	-0.02 (-0.04)	3群	3群
	09.人権教育・啓発活動の推進	0.21 (0.14)	-0.03 (-0.06)	3群	3群
	10.男女共同参画社会の実現	0.17 (0.14)	-0.07 (-0.11)	3群	3群

項目		重要度 平均:0.39	満足度 平均:-0.17	区分	前回 区分
⑤行財政運営 の強化のため の取組	01.経営感覚をもった行財政運営の推進	0.47 (0.46)	-0.25 (-0.42)	2群	2群
	02.ニーズに合う弾力的な機構改革の推進	0.41 (0.43)	-0.27 (-0.42)	2群	2群
	03.効率的できめ細かな行政サービスの推進	0.44 (0.37)	-0.30 (-0.42)	2群	2群
	04.官民パートナーシップの推進	0.24 (0.22)	-0.18 (-0.37)	4群	4群
	05.市職員の能力の向上	0.48 (0.47)	-0.34 (-0.51)	2群	2群
	06.市民参加型まちづくりの推進	0.28 (0.26)	-0.15 (-0.21)	3群	3群
	07.市民活動支援の推進	0.21 (0.22)	-0.11 (-0.15)	3群	3群
	08.ファシリティマネジメントの推進	0.27	-0.23	4群	
⑥その他	01.シティプロモーションの促進	0.37	-0.28	4群	
	02.地域コミュニティ活動の充実	0.37	-0.03	3群	

※重要度、満足度下部のかつこ内は前回(平成26年)調査時の数値

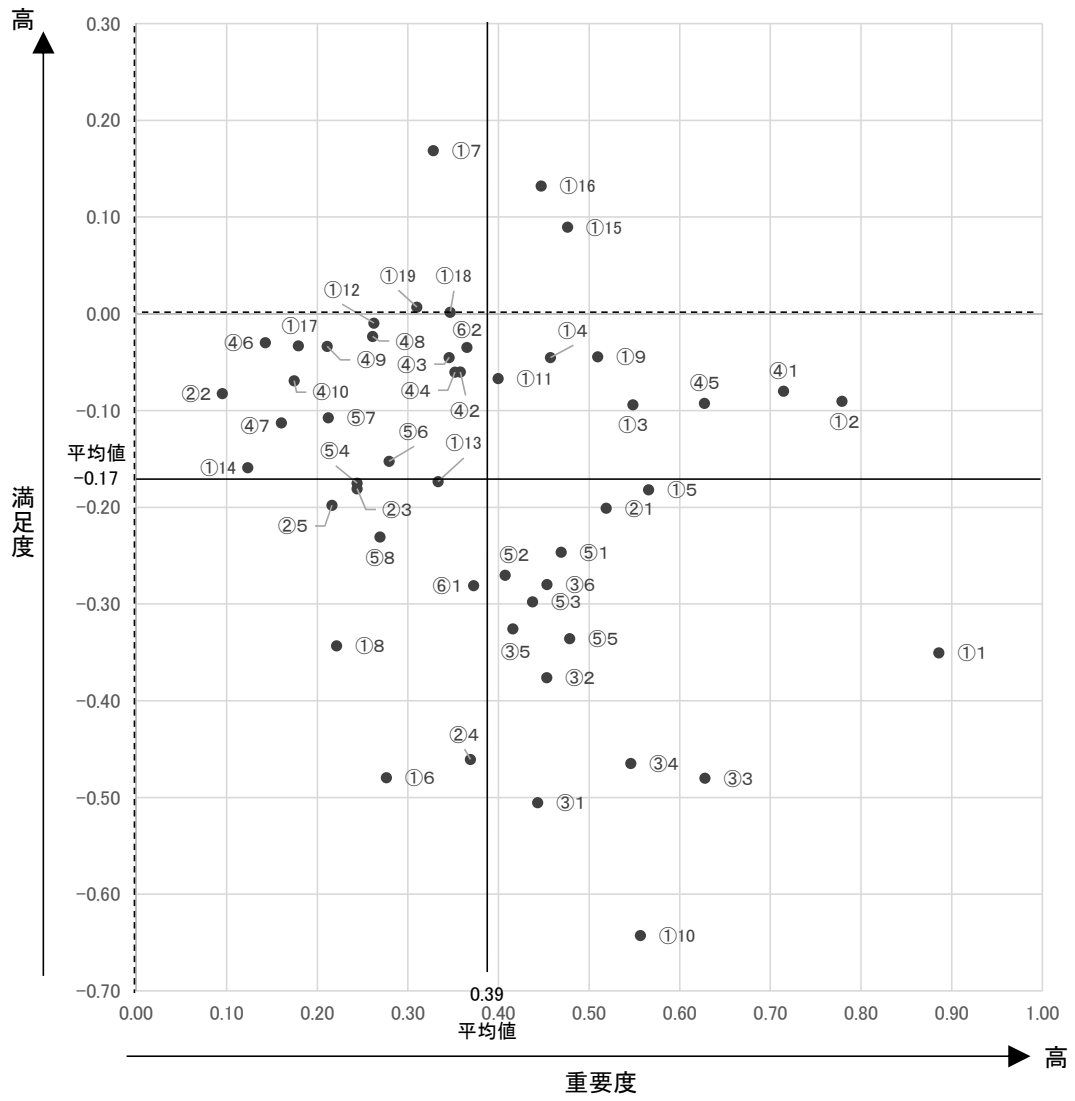
※区分の太字下線部分は、前回区分から動きのあった項目

※網掛けしている項目は、2群「特に重点的に改善に取り組む必要があるもの」に区分された項目

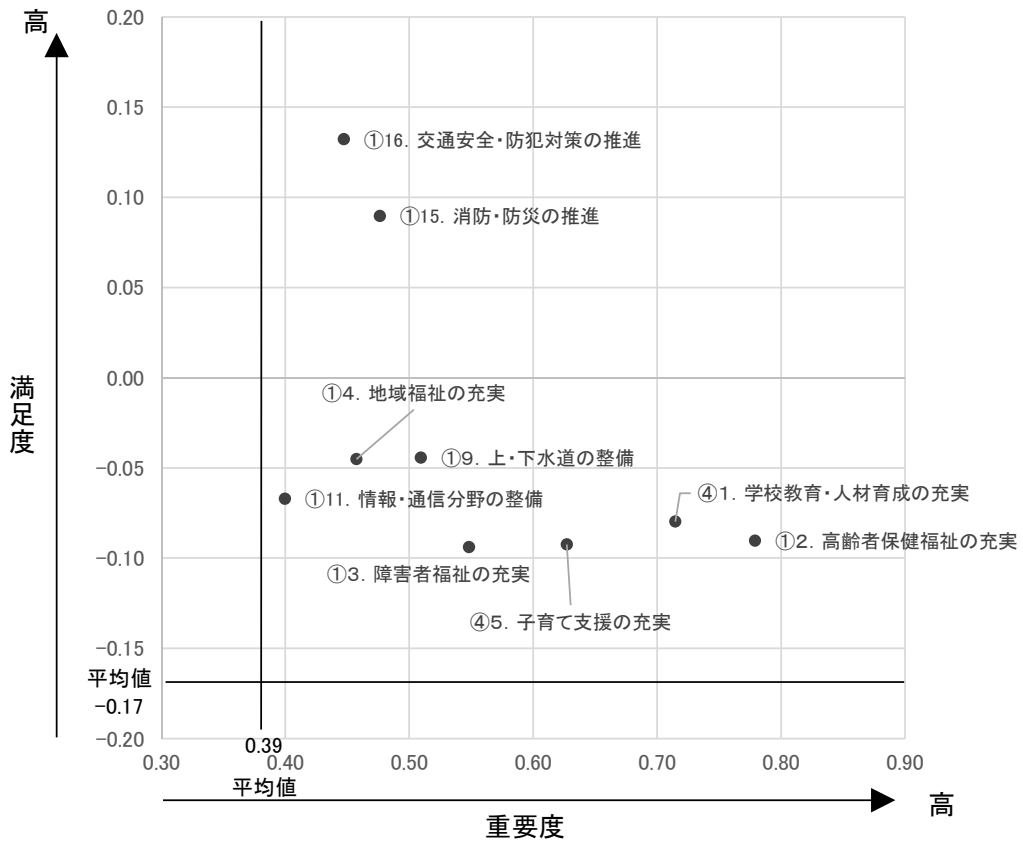
■前回アンケートとの比較

市民アンケート結果 区分	平均値		備考
	前回調査	今回調査	
満足度	-0.27	-0.17	0.1改善
重要度	0.36	0.39	0.03上昇

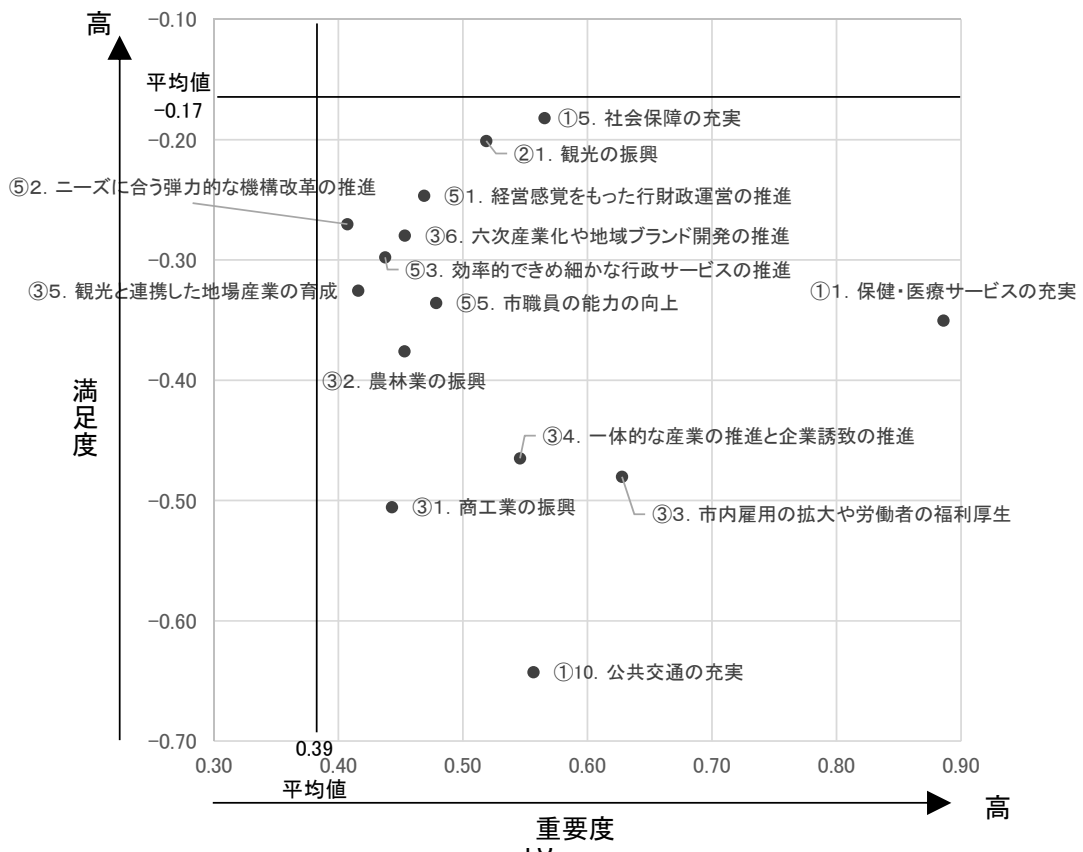
◆満足度と重要度の相関図



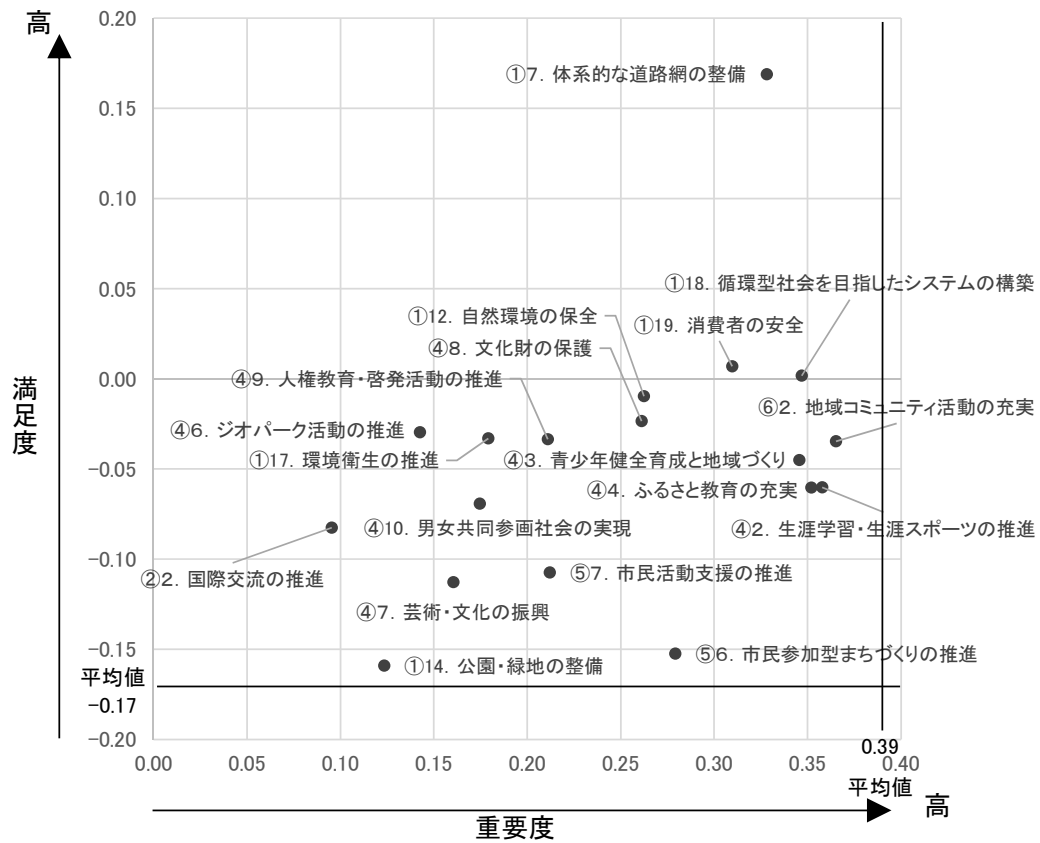
◆【1群】今後も取組を重点的に維持していく必要があるもの



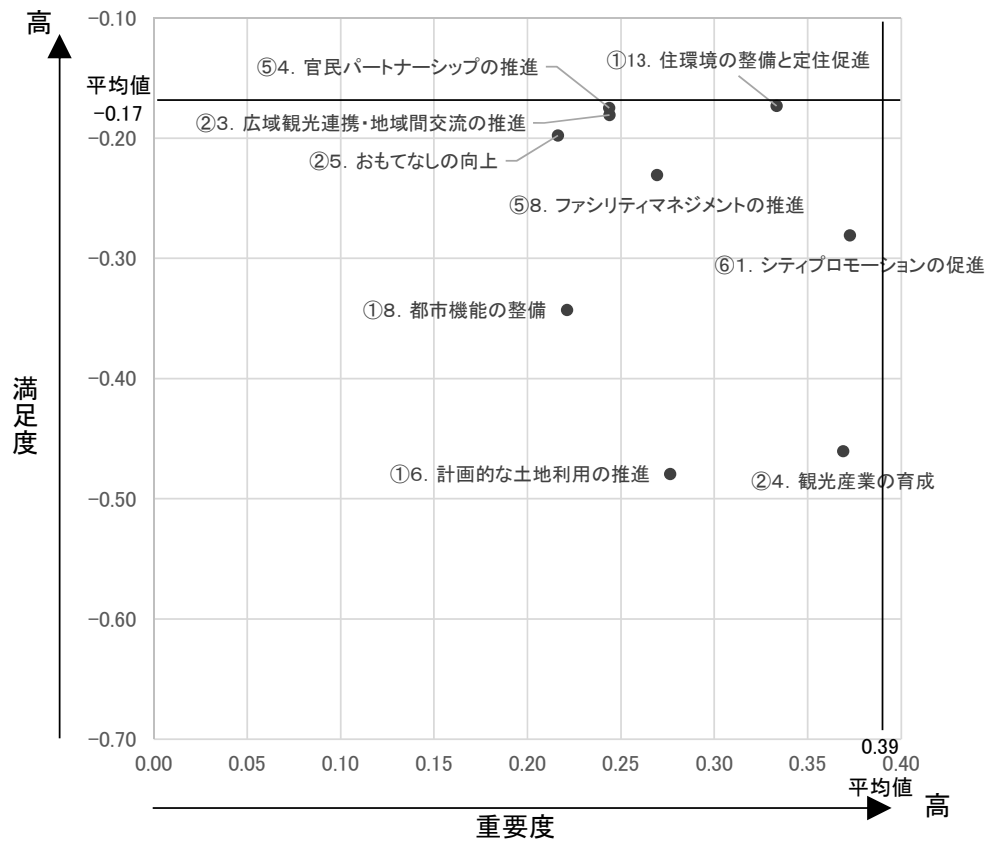
◆【2群】特に重点的に改善に取り組む必要があるもの



◆【3群】取組を維持していく必要があるもの

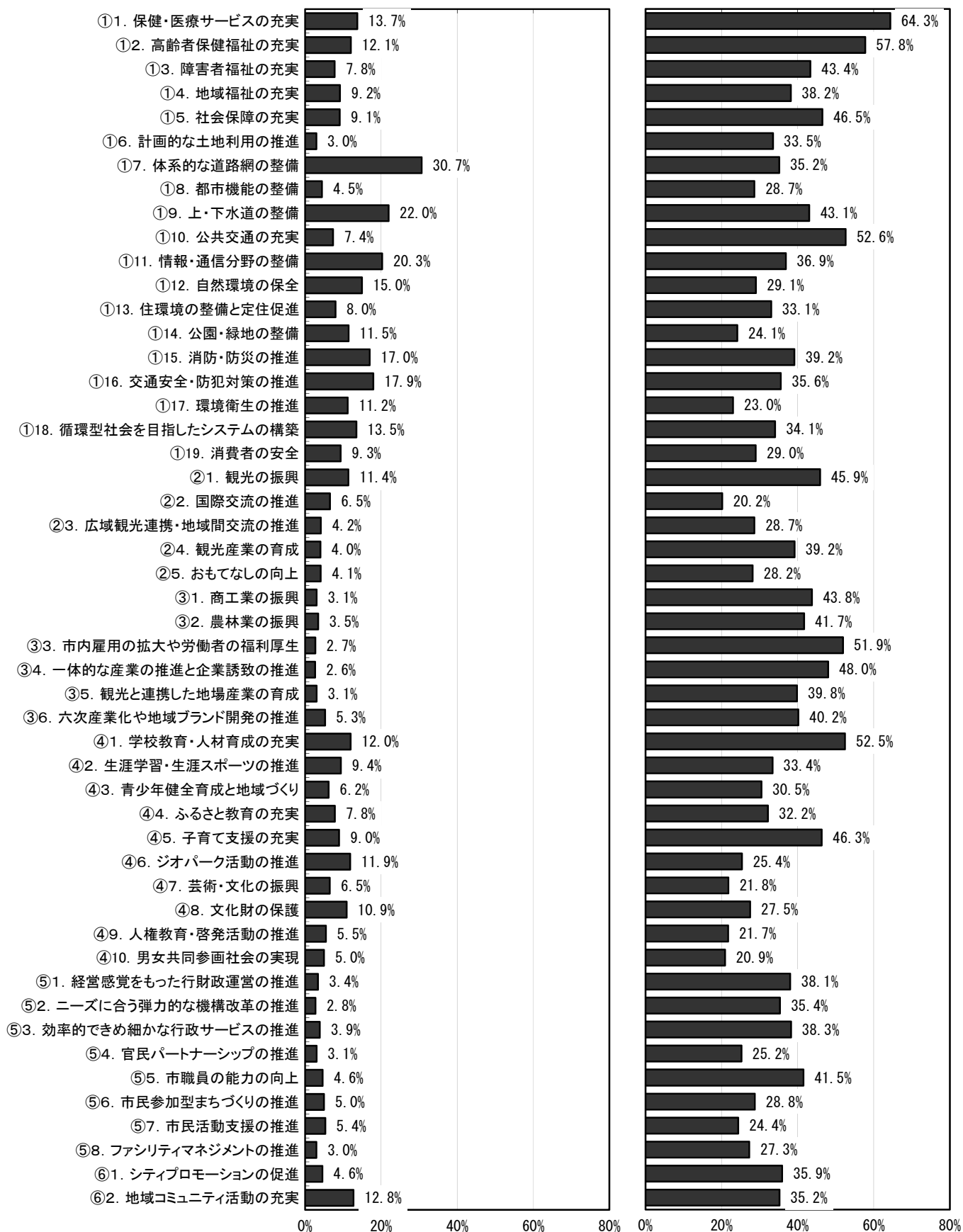


◆【4群】優先度が比較的に低いもの



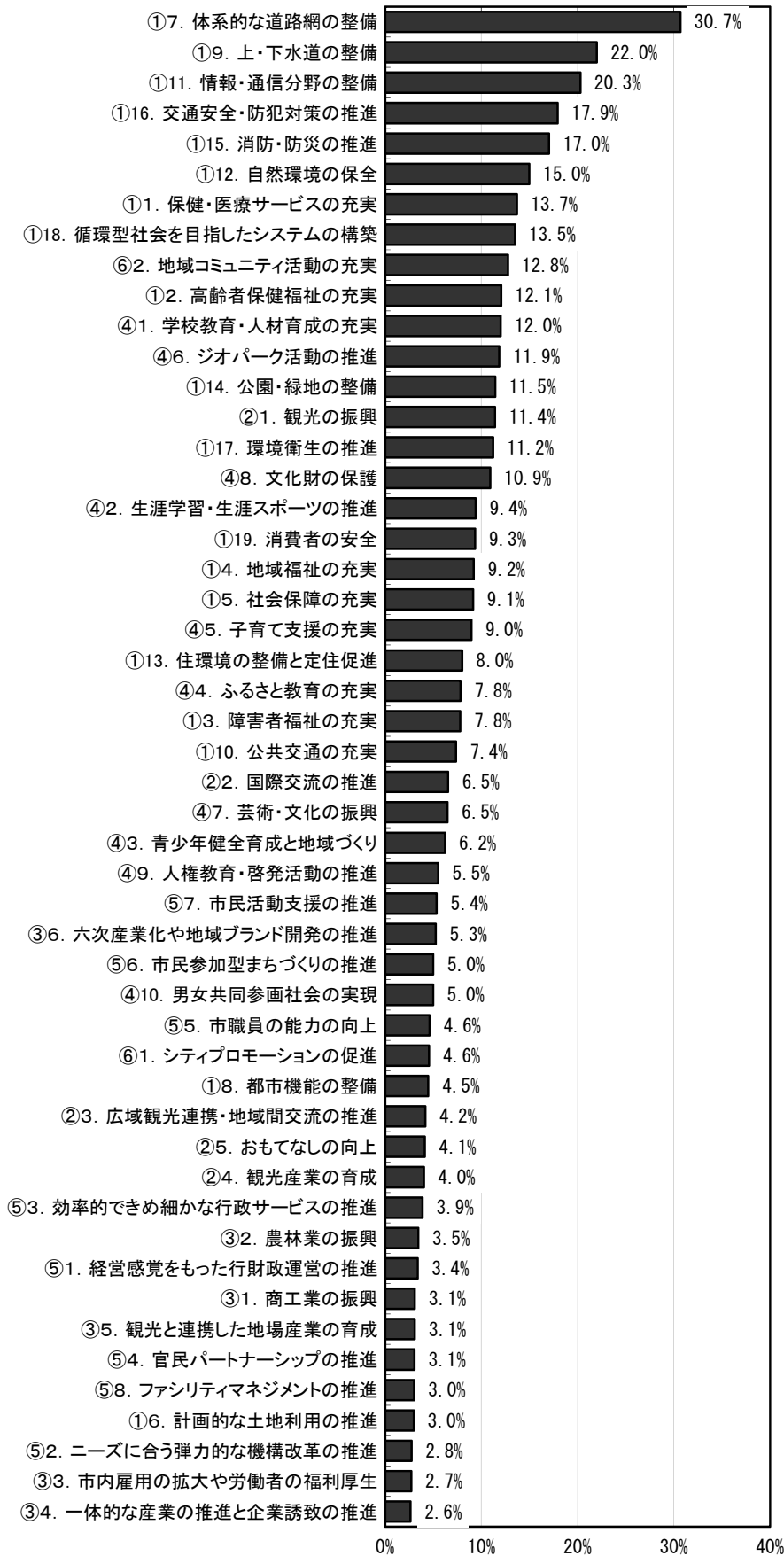
◆満足度(項目順)

◆重要度(項目順)

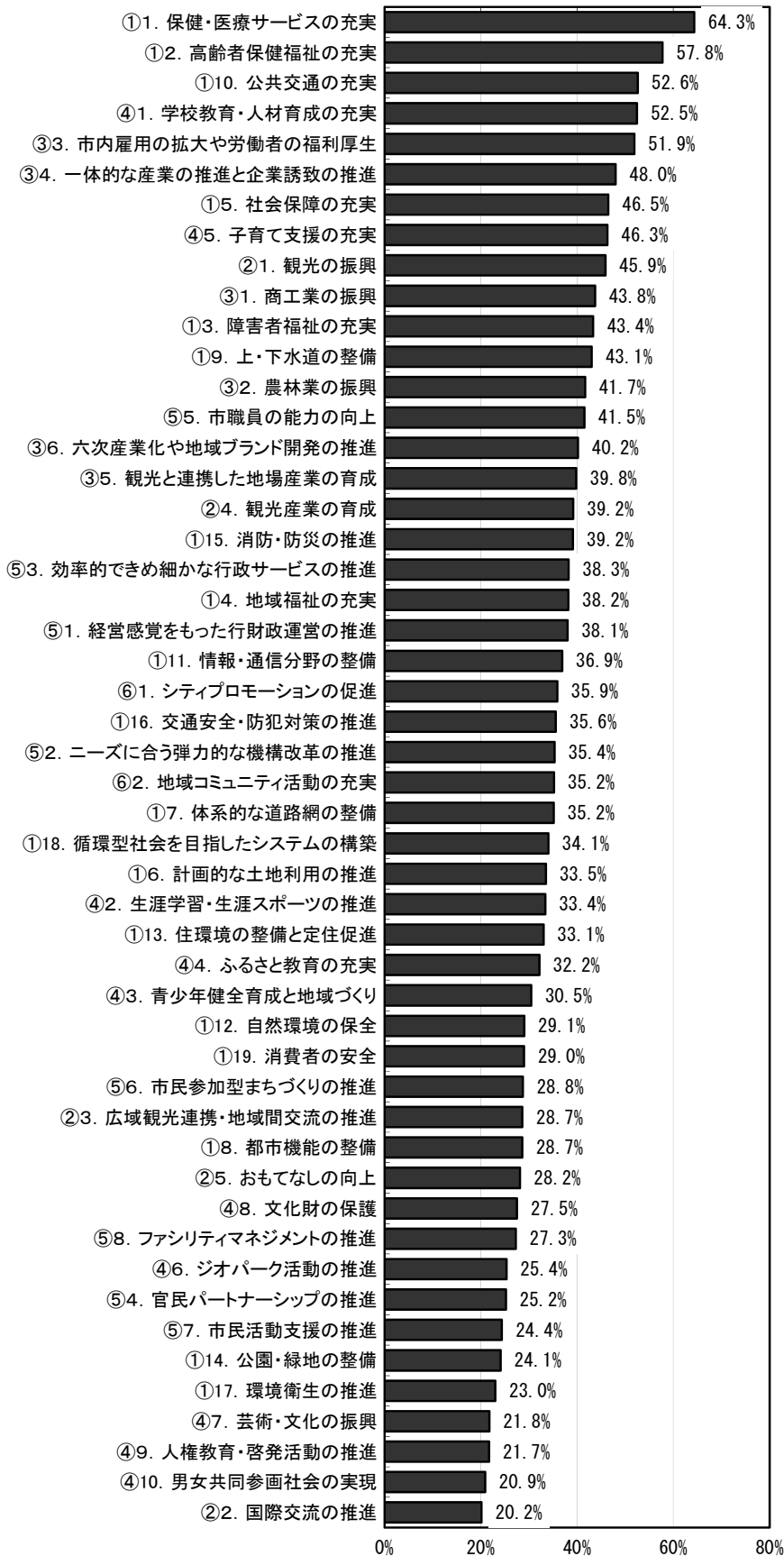


※ここでの満足度、重要度は「満足(高い)」または「やや満足(やや高い)」の回答割合としています。

◆満足度(満足度順)



◆重要度(重要度順)



◆【参考】前回の満足度と重要度の相関図

